



新渡戸家の家紋をデザインに使用した十和田市南町内会（稲生町一・二・三丁目）自主制作太鼓山車

開拓の歴史を受けつぐ稲生町の人びと

十和田市稲生町は新渡戸傳による三本木原開拓に起源をもつ町です。しかし古い町並みは残念ながら残っておらず、そうした歴史を受けつぐことが難しくなっています。その中で、今年9月12日(金)～14日(日)に開催された十和田市秋まつりでは、開拓の歴史を語りつごうとする稲生町の人びとの自主的な活動が目につきました。十和田市南町内会（稲生町一・二・三丁目）では、当館所蔵の馬印などを参考に、新渡戸家家紋「月星」女紋「四つ七宝」の巨大まといを制作して太鼓山車に設置し、当館で家紋の意匠監修を行いました。同会は今年から山車を自主制作に切り替えています。記念すべき自主制作第一弾のデザインを中心に新渡戸家の家紋に託して稲生町の歴史を据えたとのことでした。同じく稲生町の十和田市中央町内会「わ組神輿」は、今年神輿担ぎの歌として開拓の歴史を歌いこんだ「十和田地固め唄」を制作し、当館で開拓時代の和歌等の調査協力を行いました。同会メンバーは開拓時代から受けつがれる古い地固め唄を新渡戸傳のふるさとである花巻まで行って収録し、当時の再現を試みています。

歴史に裏打ちされた「真の地域アイデンティティ」を求める稲生町の人びとの思いに、当館が守り伝える三本木原開拓の歴史の大切さを改めて感じています。



太素塚での出陣式で十和田地固め唄を披露するわ組神輿のメンバー



勇壮な十和田市中央町内会 わ組神輿
[写真提供：櫛岩間印刷]

稲生川上水150年記念

太素塚元朝参り開催

甘酒&お神酒サービス

12月31日 22:00
～元旦 1:30

NEWS

10月3日 青森県博物館大会
館長代理が地域との連携について事例発表

10月3日(金)10:00～十和田市民文化センターで開催された青森県博物館大会（主催：青森県博物館等協議会）で館長代理が「十和田市立新渡戸記念館と地域との連携～地域博物館としての使命～」と題して、また青森県立郷土館 昆政明学芸課長が「地域と博物館の連携について～青森県立郷土館を中心とした事例～」と題して事例発表を行いました。館長代理の事例発表では、現在行っている地域密着型の活動を紹介するとともに、“今後は『世界に通ずる「ローカル」博物館』となるよう、地域との「連携」から一歩進んだ「共創」を目指し、博物館も「地域住民」として、ともに「郷土愛、地域力、知的体力、真の豊かさ」を創造するという使命感をもって取り組みたい”と、今後の展望について発表しました。午後に行われた施設見学会では十和田市現代美術館、十和田市称徳館とともに当館を見学し、当館においては館長が館内を案内しました。



事例発表する新渡戸常憲館長代理



あらかまほしけれ こども武士道

<http://www.kodomo-bushido.com/>

「武士道」を楽しく学ぶサイト
“あらかまほしけれ こども武士道” 登場

親子で楽しみながら「武士道」を学ぶ道德エンターテイメントサイト『あらかまほしけれ こども武士道』は、新渡戸稲造の「武士道」精神に親しめるサイトで、武士道検定に挑戦できる「がっこう」、楽しい『こども武士道』の歌が聴ける「おしろ」、アニメーションで道德のお話しを見ることができる「しばいごや」(現在作成中)など各コーナーとも充実した内容です。絵巻物風のトップページイラストには新渡戸記念館も描かれており、当館サイトへのリンクが設定されています。サポーターの推薦文を掲載する「みんなの声」には当館館長代理が推薦文を寄稿していますので、ぜひ一度ご覧下さい。

★ 新渡戸記念館では「こども武士道ステッカー」を配布中！★

11月6日 十和田市民大学 第十一講座
『三本木平開業之記を考える』と題して館長が講演

平成20年十和田市民大学講座・第11講座『三本木平開業之記を考える』で、館長が講師をつとめました。万延元年(1860)秋、三本木原開拓への協力を求めるため、新渡戸傳、十次郎、七郎(邦之助)の三代連名で発表した三本木原地域振興計画書「三本木平開業之記」の内容を、開拓のこぼれ話などを交えながら楽しく解説しました。18:30～20:30十和田市民文化センター視聴覚ホールで開催された本講座は、最終講座として市民大学閉校式とあわせて行われました。

トピックス

写真家 和田光弘さんより
「雪の太素塚」写真パネルを寄贈いただく

十和田市出身の写真家・和田光弘さん〔社日本写真家協会会員〕より、雪の中の記念館と銅像三体を撮影した写真「雪の太素塚」パネル1点を寄贈いただき、記念館エントランスに展示しました。この写真パネルは十和田市現代美術館秋季企画展「都市の記憶—和田光弘写真展—」〔会期:平成20年9月13日(土)～10月19日(日)〕に出品したもので、企画展終了後、和田さん自ら持参くださいました。

エントランスに展示した和田光弘さん寄贈の写真パネル



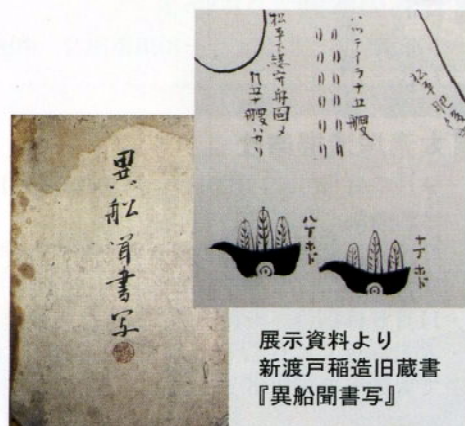


稲生川上水150年記念 収蔵資料展 2008 — 新渡戸稲造旧蔵書 —

【期間】 2008年11月25日(火)～2009年2月28日(土)

【場所】 新渡戸記念館一階特設展示コーナー

当館に収蔵されている新渡戸稲造旧蔵書のうち、未公開の和装本を中心に展示します。会期中に1回の展示入れ替えを予定しています。



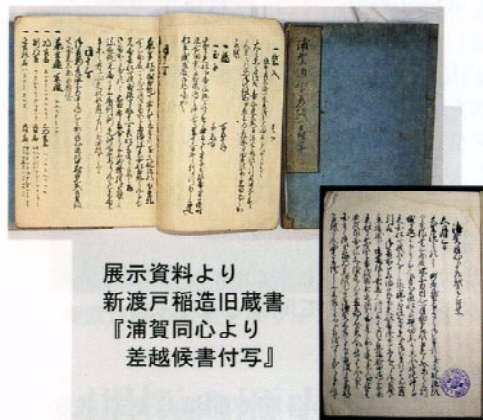
展示資料より
新渡戸稲造旧蔵書
『異船開書写』

＜展示入れ替えスケジュール＞

第一期展示期間 平成20年11月25日(火)～平成21年1月11日(日) 異国船関係資料を中心に展示

第二期展示期間 平成21年1月13日(火)～平成21年2月28日(土) 「太平記」などの軍記物語を中心に展示

※特別展は通常観覧料で常設展とともにご覧いただけます (十和田市民は無料)



展示資料より
新渡戸稲造旧蔵書
『浦賀同心より
差越候書付写』



展示資料より
新渡戸稲造旧蔵書
『蠻舶雑録 全』
(安政6年)



展示資料より
新渡戸稲造旧蔵書
『太平記』
目録、巻1～40
(全21冊)

小学校の団体見学に対して 「かみしも」姿での解説サービスを始めました

当館には小学4年生が郷土学習として三本木原開拓の歴史を学ぶために来館しますが、その子どもたちへの対応として、11月14日(金)から新渡戸家・月星紋付き袴姿での解説サービスを始めました。子どもたちは解説員が袴姿で現れると、びっくりした様子で、「あ！サムライの格好だ！」「かっこいい！」「新渡戸傳さんが来たかと思った！」などの声が聞かれました。袴を着るときの苦労話から始めて、江戸時代と現代の違いを子どもたちに想像してもらい、工事の大変さを実際のトンネル工事の道具「ばんづる」のレプリカを手に説明すると、子どもたちはすぐにその時代をイメージできた様子で、いつも以上に集中して解説に耳を傾けていました。

当館では地域の誰もが地域史を語り、「ふるさと」を愛し、誇りに思えるような社会教育のできる施設を目指しています。そのため今後さらに郷土学習対応を充実させていきたいと考えていますので、より良い対応のためのご意見ご感想などがありましたら、記念館までお寄せ下さい。



八戸市立小中野小学校へ袴姿で対応する小笠原職員

※袴の着用については準備の関係上、事前にご予約いただいた場合のみのサービスとなりますのでご了承下さい。

mini NEWS

資料の寄贈 >>詳細p.2

・写真家和田光弘さん〔十和田市出身/旧日本写真家協会会員〕より、和田さん撮影「雪の太素塚」写真パネル 1点

太素塚清掃奉仕

- ・9月7日(日) 9月20日(土) 10月5日(日) 11月2日(日) さわやかクラブ 様
- ・9月20日(日) 十和田市老人クラブ大学通り老成会 様
- ・10月25日(土) 第三白菊保育園 様
- ・11月8日(土) 十和田稲生ライオンズクラブ 様
- ・太素塚近くに住む石川原光雄さんに、本年も一年を通して太素塚の美化ボランティアとして活動いただきました。

ありがとうございました

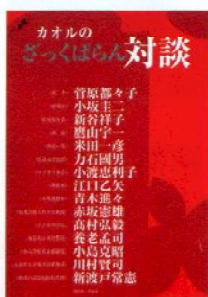
来館小・中学校 2007.12~2008.11

<小学校> ●十和田市 ●ちとせ小学校・三本木小学校・大不動小学校・深持小学校・南小学校・北園小学校・法奥小学校・米田小学校・上切田小学校・伝法寺小学校 ●八戸市 ●八戸小学校・新井田小学校・下長小学校・高館小学校・城下小学校・吹上小学校・鮫小学校・白銀南小学校・豊崎小学校・柏崎小学校・中居林小学校・小中野小学校 ●五戸町 ●五戸南小学校・虻川小学校・五戸小学校 ●六戸町 ●折茂小学校・大曲小学校・開知小学校・六戸小学校 ●七戸町 ●七戸小学校 ●野辺地町 ●若葉小学校・馬門小学校 ●百石町 ●おいらせ小学校・甲洋小学校 ●新郷村 ●川代小学校・西越小学校 ●東北町 ●蛇沢小学校 ●南部町 ●名久井小学校・南部小学校 ●三戸町 ●三戸北小学校 ●青森市 ●浪打小学校 <中学校> ●十和田市 ●大深内中学校

関連情報

▶『カオルのざっくばらん対談』に館長代理対談掲載

人間情報紙『夢追人』(BUNKA新聞社発行)に掲載された同紙編集長・小笠原カオルさんと著名人の対談を抜粋収録した『カオルのざっくばらん対談』(文化出版)が平成20年11月3日出版されました。同書には過去に行った対談のうち、文化関係の著名人15人を選んで収録されており、その内の一人として館長代理の対談が掲載されています。館長代理と小笠原さんの対談は2008年1月号の「編集長の新春ざっくばらん対談」として行われたものです。



▶十和田市文化財保護協会で「十和田山の碑」についての解説板を設置

十和田市中振の馬頭神社境内にある「十和田山の碑」は安政6年(1859)5月4日の人工河川・稲生川上水成功を、山の神である十和田山の加護によるものと感謝した江渡音蔵が同年8月に建てたものです。その由来を後世に伝えるため、十和田市文化財保護協会(下山健逸会長)が三興電子工業(小松崎壽志社長)からの寄贈を受けて、石碑の案内板を設置しました。音蔵は新渡戸傳とともに花巻から来た人物で、後に中振江渡屋忠兵衛の婿養子となり、当館で看板の解説文の監修を行いました。

活動報告

▶館長が倫理法人会モーニングセミナーで講演

9月5日(金)、十和田市倫理法人会(杉本佳築子会長)「モーニングセミナー」(会場:十和田富士屋ホテル)で、館長が「忘れられた俚諺・俚言」と題して講演を行ったところ大変好評で、さらに10月30日(木)八戸市倫理法人会(会場:八戸プラザホテル)でも「新渡戸稲造著『農業本論』を考える」と題して講演を行いました。

▶高教研で館長が講話

11月12日(水)、当館を会場に行われた平成20年度高教研地理歴史科・公民科部会上北地区研究会で、館長が講話を行いました。



▶博物館関係会議出席

- ・9月25日(木)~26日(金) 平成20年度日本博物館協会東北支部ならびに東北地区博物館協会総会・研修会(会場:多賀城市・東北歴史博物館)に館長代理出席
- ・11月20日(木)~21日(金) 第56回全国博物館大会(開催地:島根県松江市/大会テーマ:地域に生きる魅力ある博物館への新たな出発)に館長代理出席
- ・11月28日(金) 平成20年度第2回青森県立郷土館協議会(青森県立郷土館)に館長出席

▶新渡戸傳翁命日祭開催

9月27日(土)11:30から稲生川上水150年・新渡戸傳翁没後137年命日祭式典を太素塚にて開催しました。

▶企画展好評につき会期延長

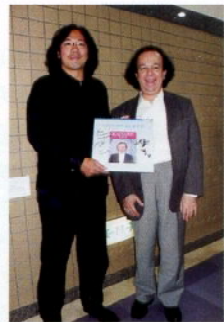
8月1日(金)~9月30日(火)の会期で開催した平成20年企画展「太素塚 生きもの歳時記-太素の森の動植物展-」(共催:青森県立郷土館)好評につき、会期を10月19日(日)まで延長しました。

▶新渡戸記念館指定管理者申請

太素顕彰会は平成21年度からの十和田市立新渡戸記念館運営にかかわる指定管理者申請を行い、11月7日付けで候補者に選定されました。

編集後記

音楽評論家として、『音楽現代』への評論執筆のため10月26日(日)18:30から「シブリアン・カツァリス ピアノリサイタル」(六ヶ所村文化交流プラザスワニー・大ホール/主催 財団法人六ヶ所村文化振興公社)を取材しました。カツァリス氏は私が最も敬愛するピアニストの一人で、20年以上前、恩師である音楽評論家・石井宏先生とともに一度カツァリスに会ったことがありました。そのことについて氏に話したところ「僕は君をよく覚えているよ!ほんとうによく来てくれた、会えて嬉しいよ、石井先生に宜しく。」と答えてくれ、久しぶりの再会にお互い力強い握手を交わしました。また、11月8日(火)に開催されたチェコ音楽コンクール・ピアノ部門では、審査員を務めました。こうした私の音楽界での活動も、何らかの形で地域に還元できればと思っています。(音楽学博士・館長代理 新渡戸常憲)



■ご利用案内

- ・開館時間:午前9:00~午後4:00
- ・休館日:毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29~1/3)
- ・観覧料:大学生・一般210円(団体178円)
- 小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



十和田市立 新渡戸記念館

Nitobe Memorial Museum

URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日

編集・発行

2008年12月1日

太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館

〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1

Tel & Fax: 0176-23-4430

Email: nitobemm@hi-net.ne.jp

株式会社 岩間印刷

印刷